

音楽科学習指導案

令和4年11月 第6学年 指導者 大島 恵依子

1 題材名 曲想の変化を感じ取る

教材名 ①鑑賞教材「ハンガリー舞曲 第5番」(ブラームス作曲)
②器楽教材「風を切って」(土肥 武 作詞/橋本祥路 作曲)

2 題材観(省略)

3 児童の実態及び指導方針(省略)

4 研究との関わり(省略)

5 題材の目標

- (1) 速度、強弱、音の重なり、変化や歌詞の内容などと曲想との関わりを理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける。
- (2) 速度、強弱、反復や変化などと曲想の関わりを考え、曲想の移り変わりを味わいながら、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 曲想の移り変わりと音楽を形づくっている要素との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習に取り組み、様々な音の響きやその変化に親しむ。

6 題材の評価規準

- (1) 知識・技能
 - ① 曲想及びその変化と、速度、旋律の反復や変化、強弱との関わりについて理解している。
 - ② 曲想と音色、速度、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりについて理解している。
 - ③ 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。
- (2) 思考・判断・表現
 - ① 速度、旋律の反復や変化、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。
 - ② 音色、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度
 - ① 曲想の移り変わりと音楽を形づくっている要素との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（全6時間）

過程	時間	ねらい ○学習活動	知	思	態	◇評価項目<方法（観点）> 〔記〕：記録に残す評価
つかむ	1	鑑賞「ハンガリー舞曲第5番」 ●曲想及びその変化と、速度、旋律の反復や変化、強弱、調との関わりを理解して聴けるようにする。 ○旋律の反復や変化、調との関わりから学習課題をつかむ。	○			◇曲想及びその変化と、速度、旋律の反復や変化、強弱との関わりについて理解している。 <音楽ノート（知①）〔記〕>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>[題材の学習課題]</p> <p>曲想の変化を感じ取ろう ～集大成～</p> <p>「これまでの学びを生かして、曲想の変化を生かした表現を目指そう！」</p> </div>					
	2	鑑賞「ハンガリー舞曲第5番」 ●聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、響きの変化や演奏によるよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴けるようにする。 ○曲想の移り変わりや音楽を構成する要素の関わり合い（主に旋律の反復や変化、調）を視点を、想像したことや感じ取ったことを捉えていく。		○		◇速度、旋律の反復や変化、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 <音楽ノート（思①）〔記〕>
追求する	3	表現：器楽「風を切って」 ●曲想と音色、速度、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりについて理解できるようにする。 ○曲想の変化を効果的に演奏に表わすための見通しをもち、どのような演奏を目指すかについて考える。	○			◇曲想と音色、速度、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりについて理解している。 <音楽ノート（知②）〔記〕>
	4	●曲想と音色、速度、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもてるようにする。 ○曲全体からみて、イの部分をどのように演奏するかについて、思いや意図を伝え合い、それに合う表現の工夫を友達と共有したり評価し合ったりしながら追求する。			↓ ↓	

	5 本 時	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">本時のめあて：ウの場面 の情景や主人公の心情を聴き手に伝えるには？</p> <p>●曲想の変化と旋律の動きやパートの役割との関わりを視点に、思いや意図を膨らませながら表現の工夫を追求できるようにする。</p> <p>○曲全体からみて、ウの場面をどのように演奏するかについて、思いや意図を伝え合い、それに合う表現の工夫を友達と共有したり評価し合ったりしながら追求する。</p>	○	↓	◇音色、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 <観察、音楽ノート（思②）〔記〕>
ま と め る	6	<p>●思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏する技能や、各パートの楽器の音や全体の響きを聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏できるようにする。</p> <p>○全体での思いや意図を再度共有し、工夫の視点を伝え合い共に演奏をする。</p> <p>○これまでの学びを振り返り、曲想の変化によるよさをまとめる。</p>	○	○	◇思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏する技能や、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。 <演奏観察（知③）〔記〕> ◇曲想の移り変わりや音楽を形づくっている要素との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習に取り組もうとしている。 <観察、音楽ノート（態①）〔記〕>

8 本時の展開（5/6時間目）

(1) ねらい

表現の工夫を追求する場面において、曲想の変化と旋律の動きやパートの役割との関わりを視点に、音楽ノートを活用した交流活動を通して、思いや意図を膨らませながら表現の工夫を追求できるようにする。

(2) 準備

音楽ノート

(3) 展開

時 間	○学習活動 ・想定する児童の意識	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ●努力を要する児童への支援 ◇評価項目<方法（観点）>
導 入 7 分	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○本時のめあてを設定する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><めあて> ウの場面 の情景や主人公の心情 を聴き手に伝えるには？</p>	<p>○開始前から音楽を流しておき、児童が入室後、自然と学びに向かえるようにする。</p> <p>◎これまでどのような視点をもって表現の工夫を追求してきたのかを想起できるよう、個とパートで振り返りをする。</p> <p>◎振り返りをもとに本時の方向性を定め、全体としてのめあてを設定する。</p>

<p>展開① 10分</p>	<p>2 課題解決の見通しをもつ</p> <p>○課題解決に向けて視点を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想の変化を効果的にしたいな。 <p>○表現の工夫を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当するパートの動きの特徴から、～の部分をも～のように工夫して演奏したい。 <p>(予想される工夫)</p> <p>アクセント/強弱/音色/響き/スタッカート/レガート</p>	<p>◎振り返りで挙がった課題を確認し「速度」「強弱」「音色」「パートの役割」をもとに、グループではどの視点で追求を行うのか分類・整理させ追求の焦点化を図る。</p> <p>○課題解決に向けて個及びパートでの表現の工夫を考え、実際に試しながら追求させていく。</p> <p>●考えた工夫の根拠は何か、その工夫を実際の演奏に表出させるための技能は何かを思考できるよう、音楽ノートを活用した声かけを行う。</p>
<p>展開② 15分</p>	<p>3 グループになり、課題解決に向けて互いの考えや工夫点を共有する。</p> <p>○各パートが考えた工夫を試し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームで目指す演奏に近付くために各パートの工夫は効果的なか実際に演奏して確かめたい。 ・過酷な登山の足取りの様子を、強弱をつけて表したい。また、壮大な情景をのびやかな響きで表現したい。 ・それぞれの工夫はいいと感じたが、各パートの工夫を合わせて合奏したらどうなるのかな。やっぱり工夫はそろえて演奏する方が工夫の効果がでて、表現したい情景や心情に近づくとと思う。 	<p>◎解決に向けて、パートごとにどのような表現の工夫を行ったのか伝え合い演奏する。その際、目指す表現に対して評価し合えるよう、楽譜を基に説明させ、相手に工夫の意図が分かるよう、根拠を明確にして伝えたり、焦点化して聴いたりできるようにする。</p> <p>○パートごとに考えた工夫を実際に合奏し、試させる。それぞれの考えた工夫が意図通り効果が表れているか、確認する。</p> <p>○実際に試して生まれた課題や成果を共有し合い、グループ内で互いにアドバイスをし合いながら再追求を行う。</p> <p>●工夫の効果を判断できるよう、グループ全員で目指す演奏(情景や場面、主人公の心情)に立ち返り工夫の効果を確認させる。</p> <p>◇音色、強弱、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p><観察、音楽ノート(思②) [記] ></p>
<p>展開③ 8分</p>	<p>4 2グループごとにお互いの演奏を聴き合う。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <まとめ(予想)> 表したい情景や主人公の心情を聴き手に伝えるには、パートの役割を果たしたり、全体の重なりを考えて工夫を合わせたりすることが大切。 </p>	<p>◎どのような視点をもって表現の工夫を追求してきたのか伝え合い、それぞれ演奏する。その際、目指す表現に対して評価し合えるよう、楽譜や音楽ノートをを用いて説明させる。さらに、相手の工夫の意図を感じ取って聴き合えるよう、根拠を明確にした説明を促す。</p> <p>○全員が自分や友達表現を高めるために自分の考えをもって追求していることを感じ取れるよう、互いの考えの深さやよさに目を向けられる声かけを行い、再追求に向かう意識を高めるようにする。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <振り返り>予想 聴き手が曲想の変化を楽しめたり、情景や主人公の心情を想像したりするには、作り手の工夫をよく理解して効果的に演奏することが大切だと改めて感じた。このあとは、曲全体の流れを考えて演奏したい。そのために、これまでの工夫をつなげて試し演奏をすることで、よりよい表現を目指していきたいと思った。 </p>	<p>○追求の過程でできたこと・分かったこと・気付いたこと、次時にどのような視点で活動していきたいか、振り返りをさせる。</p>

